

# 歴史的風土を守るための担い手確保を目指して

(奈良県・明日香村農業委員会)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

新規参入の  
促進

その他(農業  
委員会の体  
制強化等)

## 【農業委員会の体制】(平成29年7月20日移行)

○新体制:農業委員14人、農地利用最適化推進委員6人

○旧体制:農業委員24人



## 1 地区の特徴・状況、課題

○本村は、奈良盆地の南東部に位置し、大阪から約40km、奈良市から約25kmの圏内にあり、飛鳥時代の6世紀末から7世紀にかけて「都」が営まれた地域であり、村内には宮跡・寺院・古墳などの文化遺産が数多く存在し、周囲の田園景観と一体となって歴史的風土を形成している。

○本村の農業は単に農作物の生産機能を担っているだけでなく、歴史的風土の保存においても、極めて重要な役割を果たしているが、本村においても農業従事者の高齢化、後継者不足が深刻な問題となっている。また、米価の低迷や有害鳥獣による農作物の被害などにより、農業者の生産意欲の低下や耕作放棄につながっている。

## 2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○農業委員会(農業委員・農地利用最適化推進委員)は農地利用集積円滑化団体である(一財)明日香村地域振興公社等と連携し、農業技術や農業経営を実習と講義で身につけてもらう『農業塾』の開講や農業次世代人材投資事業等を活用しながら、新たな担い手の育成・確保を図っている。また、ツルムラサキ等の労働負担の少ない農作物の導入を推進し、遊休地の解消に取り組んでいる。

○農業委員会が行っている農地利用状況調査や農地利用意向調査の結果を踏まえ、農業委員会や地域振興公社、なら担い手・農地サポートセンターと連携し、農地の利用調整等を進めている。

## 3 活動(取組と工夫)の結果

○毎年1~2人が新規就農されている。

○ツルムラサキの生産面積については、導入当初の(平成26年度)5aから、平成29年度は230aとなり遊休地の解消につながっている。